

平成30年度第2回北海道立旭川美術館協議会 議事録

★旭川美術館協議会は、学識経験者、学校および社会教育関係者、家庭向上向上関係者、公募の委員で構成され、毎年度2回（通常は7月と2月）開催されます。美術館の活動について、館長に意見を述べるができる諮問機関です。委員の過半数の出席で成立します。

- 1 日 時 平成31年2月27日（水） 14:00～16:00
- 2 会 場 北海道立旭川美術館講堂
- 3 出席者数 協議会委員12名中10名出席 美術館職員6名（館長および正規職員）
- 4 出席委員 大石朋生（副会長）、小野田倫久、鎌田優子、佐藤 圭、佐藤 保（会長）、新居由紀子、星 秀隆、本間公浩、舛田諭希、山本 進（50音順敬称略）
- 5 取 材 北海道通信社
- 6 議 事 (1) 平成30年度事業実施状況について
(2) 平成31年度事業運営計画について
(3) その他（「第1回協議会の意見に基づく取組状況」について）
(4) その他（「アートギャラリー北海道の取組状況」について）

◎議事録（抄）

議事に入る前に、前回欠席委員紹介、採用美術館職員紹介、館長挨拶、展覧会観覧、その後、会長の司会進行により議事に入る。

<議事についての意見等>

* 事務局より平成30年度の展覧会等の実施状況、平成31年度の事業運営計画、第1回協議会の意見に基づく取組状況、アートギャラリー北海道の取組状況等を説明

旭川美術館の活性化や地域の文化振興の発展という観点から美術館の役割に期待することや、今後このような取組をして欲しいというようなことについて意見等を頂く。

● 夏のお盆時期など、多くの帰省者がいる時や子どもたちの夏休みの時、あるいは観光で訪れる方が多い時期に開館日をもう少し増やすことができるのであれば、観覧者の増加が見込めるのではないかと。

【事務局回答】⇒ 今年度、1日限りではあるが夜間開館を実施し、第1展示室で84名、第2展示室で29名来館いただけただけということもありますので、次年度以降、今回の結果を踏まえ、こういった形でできるかも含めて検討してまいりたい。

また、多くの帰省者がいる時期での開館日の増加等について、私どもも意識は持っていますので、開館日を増やしたりできるかどうかも含めて検討していきたい。

- 多言語リーフレットの設置場所についても説明がありましたが、ホテルには設置しているのか。
【事務局回答】⇒ 印刷部数が少なく、ホテルには配付していない。
- 職員の皆さんが苦勞されて観覧者数増加への取組や展示などの工夫をされていることがとても伝わってきた。
- 前回の協議会での意見に対して、美術館のほうできちんと考えて実行されており感動した。
- 今回の展覧会も美術館の特長がよく表れた展示をされているので、この特長が定着していき周知されると、観光客等も見に来てくれると思いますし、美術館の特色がすごく出ているので、観覧者数にこだわらず展覧会の内容を充実させていくことで観光客等が見に来てくれるのではないかと。
- ロビーで無料コンサートを実施した時に、とにかく人が集まっており、ものすごく集客の見込まれるものと感じた。
- 「アートギャラリー北海道」はとても良い取組だと思う。観光にとっても、文化振興にとっても良いのではないかと。
- 今回の展覧会で、美術館の取組として絵をパズルにしたり、絵を描かせたりといった取組は子どもたちはすごく楽しいと思うし、すごく大事な取組だと思っているので、どんどん実施していただきたい。
- 今回の展覧会は、学芸員の考え方も出ていて、予算がない中でも頑張っている感じがあるので、これからも頑張っていたきたい。
- 観覧者数の内訳を見ると、子どもの観覧者が少ないが、われわれ保護者世代の責任なのかなと思う。
- 展覧会のタイトルのつけ方によっても人の集まりが違うのではないかと感じている。
- 常設展示にもう少し作品があっても良いのではないかと感じた。
- 予算がない中で手を尽くして展覧会をされている。
- 良い内容の展覧会を実施していけば固定ファンがついてきて、関連イベント等を行っていくうちに人はだんだん入ってくるので、今後も是非そういう取組をやっていただきたい。
- 美術館は「敷居が高い」「入りづらい」といった意見があり、人を呼ぶためにはどうしたらよいかを何かと関連づけていくと美術館に結構人が集まってくるのではないかと。これからは、権威は維持しつつ、美術に興味が無かった層も少しずつ掘り起こしていくことが必要ではないかと。